



山本シュウ
(やまもと・しゅう)
ラジオDJ。2006年から厚生労働省主催のAIDS啓発イベント「RED RIBBON LIVE」の総合プロデューサー、07年から大阪大学の非常勤講師として勤める。09年4月より障害者情報バラエティー番組「バリバラ」に出演。

もへの抗精神病薬やADHD治療薬の処方件数が約2倍近く増加したというデータ(※)もあります。ADHDなどの薬は、飲むと副作用で頭がボーっとすることがあり、授業中、座っていることすら辛い場合もあります。教職員や保護者は、授業する前にできることを考える必要があるのではないのでしょうか。

山本 外見から判断するのが困難な障害で辛い思いをしている子どもが



多様な子どもが「共に学ぶ」インクルーシブ教育の推進を

「子どもを守る」シリーズ 21

障害者権利条約(2006年国連採択)で「障害のある者とない者が共に学ぶこと」と定義されたインクルーシブ教育。14年、日本も同条約に批准し、そのとりくみが進んでいる。今回、NHKにて障害者情報番組のMCを務めるラジオDJの山本シュウさんと、同教育の推進に力を注ぐ日本教職員組合の下坂千代子さんにお話いただいた。

「人としての権利」と捉え、前向きに議論していこう

山本 ひとつには、「障害者はいかにそう」「特別に扱わなければいけない」という思い込みがあるのだと感じます。特別扱いには、かえって障害者が自分らしく生きる権利を阻害していることに気づかないのです。

NHKで「バリバラ」という障害者のためのバラエティー番組でMCを務めています。放送開始当初は、「障害者を笑う者にするなんて！」とお叱りを受けるのではと身構えていました。

「人としての権利」と捉えれば簡単なことですが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりに幸せになる権利がある、選択の自由がある。障害があるというだけで、「大変そうだな」とか、「施設に入った方が楽だろう」と、無意識のうちにコミュニケーションから排除してしまっていることに気づいてもらいたいです。

インクルーシブ教育は、健常者にも多くの学びをもたらします。障害のある子どもが学校にいてくれることで、先入観や固定観念に縛られる前に、「世の中には色々な個性を持った人がいる」との気づきが得られる。「みんなで支え合えば大丈夫」「工夫したら、一緒に授業を受けられたよ」と。そんな風に、子どもたちが自然と思える学校、インクルーシブな社会にしていきたいですね。

下坂 障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもに「人としての権利」が保障され、自分の意思で自由に選択できる社会。それを実現するためにも、周りのおとなと子どもが一緒に笑顔で、地域の学校で共に学ぶことの大切さを啓発していきたいと思っています。

「人としての権利」と捉えれば簡単なことですが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりに幸せになる権利がある、選択の自由がある。障害があるというだけで、「大変そうだな」とか、「施設に入った方が楽だろう」と、無意識のうちにコミュニケーションから排除してしまっていることに気づいてもらいたいです。

インクルーシブ教育は、健常者にも多くの学びをもたらします。障害のある子どもが学校にいてくれることで、先入観や固定観念に縛られる前に、「世の中には色々な個性を持った人がいる」との気づきが得られる。「みんなで支え合えば大丈夫」「工夫したら、一緒に授業を受けられたよ」と。そんな風に、子どもたちが自然と思える学校、インクルーシブな社会にしていきたいですね。

下坂 障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもに「人としての権利」が保障され、自分の意思で自由に選択できる社会。それを実現するためにも、周りのおとなと子どもが一緒に笑顔で、地域の学校で共に学ぶことの大切さを啓発していきたいと思っています。

「人としての権利」と捉えれば簡単なことですが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりに幸せになる権利がある、選択の自由がある。障害があるというだけで、「大変そうだな」とか、「施設に入った方が楽だろう」と、無意識のうちにコミュニケーションから排除してしまっていることに気づいてもらいたいです。

インクルーシブ教育は、健常者にも多くの学びをもたらします。障害のある子どもが学校にいてくれることで、先入観や固定観念に縛られる前に、「世の中には色々な個性を持った人がいる」との気づきが得られる。「みんなで支え合えば大丈夫」「工夫したら、一緒に授業を受けられたよ」と。そんな風に、子どもたちが自然と思える学校、インクルーシブな社会にしていきたいですね。

下坂 障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもに「人としての権利」が保障され、自分の意思で自由に選択できる社会。それを実現するためにも、周りのおとなと子どもが一緒に笑顔で、地域の学校で共に学ぶことの大切さを啓発していきたいと思っています。



下坂千代子
(したさか・ちよこ)
日本教職員組合インクルーシブ・障害児教育部長。1992年からIBC岩手放送のアナウンサー、2003年から岩手県内特別支援学校の寄宿舎指導員として勤める。13年4月から岩手県高等学校教職員組合書記次長、14年より現職。

「人としての権利」と捉えれば簡単なことですが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりに幸せになる権利がある、選択の自由がある。障害があるというだけで、「大変そうだな」とか、「施設に入った方が楽だろう」と、無意識のうちにコミュニケーションから排除してしまっていることに気づいてもらいたいです。

インクルーシブ教育は、健常者にも多くの学びをもたらします。障害のある子どもが学校にいてくれることで、先入観や固定観念に縛られる前に、「世の中には色々な個性を持った人がいる」との気づきが得られる。「みんなで支え合えば大丈夫」「工夫したら、一緒に授業を受けられたよ」と。そんな風に、子どもたちが自然と思える学校、インクルーシブな社会にしていきたいですね。

下坂 障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもに「人としての権利」が保障され、自分の意思で自由に選択できる社会。それを実現するためにも、周りのおとなと子どもが一緒に笑顔で、地域の学校で共に学ぶことの大切さを啓発していきたいと思っています。

「人としての権利」と捉えれば簡単なことですが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりに幸せになる権利がある、選択の自由がある。障害があるというだけで、「大変そうだな」とか、「施設に入った方が楽だろう」と、無意識のうちにコミュニケーションから排除してしまっていることに気づいてもらいたいです。

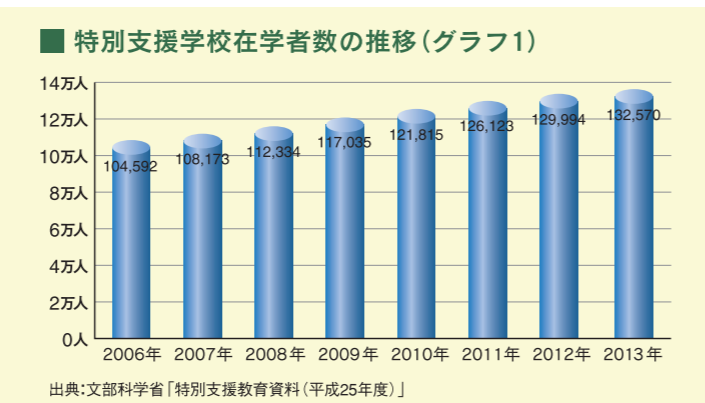
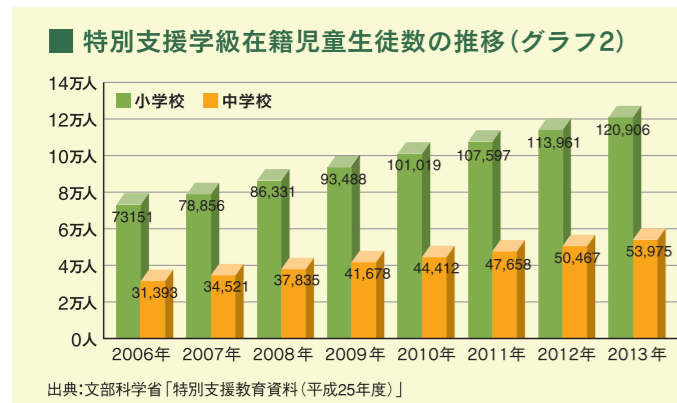
インクルーシブ教育は、健常者にも多くの学びをもたらします。障害のある子どもが学校にいてくれることで、先入観や固定観念に縛られる前に、「世の中には色々な個性を持った人がいる」との気づきが得られる。「みんなで支え合えば大丈夫」「工夫したら、一緒に授業を受けられたよ」と。そんな風に、子どもたちが自然と思える学校、インクルーシブな社会にしていきたいですね。

下坂 障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもに「人としての権利」が保障され、自分の意思で自由に選択できる社会。それを実現するためにも、周りのおとなと子どもが一緒に笑顔で、地域の学校で共に学ぶことの大切さを啓発していきたいと思っています。

「人としての権利」と捉えれば簡単なことですが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりに幸せになる権利がある、選択の自由がある。障害があるというだけで、「大変そうだな」とか、「施設に入った方が楽だろう」と、無意識のうちにコミュニケーションから排除してしまっていることに気づいてもらいたいです。

インクルーシブ教育は、健常者にも多くの学びをもたらします。障害のある子どもが学校にいてくれることで、先入観や固定観念に縛られる前に、「世の中には色々な個性を持った人がいる」との気づきが得られる。「みんなで支え合えば大丈夫」「工夫したら、一緒に授業を受けられたよ」と。そんな風に、子どもたちが自然と思える学校、インクルーシブな社会にしていきたいですね。

下坂 障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもに「人としての権利」が保障され、自分の意思で自由に選択できる社会。それを実現するためにも、周りのおとなと子どもが一緒に笑顔で、地域の学校で共に学ぶことの大切さを啓発していきたいと思っています。



※ 出典:「日本における子どもへの向精神薬処方経年変化」(医療経済研究機構)02年~04年、08~10年の向精神薬の処方件数を比較。